

農事番組における「農民」の表象とその変容  
：NHK『明るい農村（村の記録）』の映像分析から  
Representation and Transition of “Japanese Farmers” in  
Agricultural TV Programs: Based on Analysis of the NHK's  
Akarui Noson-Mura no Kiroku (Documents of Villages)

船戸 修一<sup>1</sup>, 祐成 保志<sup>2</sup>  
Shuichich FUNATO and Yasushi SUKENARI

<sup>1</sup>静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 Shizuoka University of Art and Culture  
<sup>2</sup>東京大学文学部 Tokyo University

**要旨**・・・本報告の目的は、NHKの農事番組『明るい農村』（1963～1985年）の枠内で制作されたテレビ・ドキュメンタリー「村の記録」の映像内容の分析を通して、1970年代のテレビ・ドキュメンタリーで描かれた農民像の特徴とその変容を明らかにすることである。その分析によって1970年代の「村の記録」に登場した主要なテーマは、「出稼ぎ」、「減反」、「農業の近代化（機械化・化学化）」「開発」などであり、そこで描き出されたのは、戦後農政に苦悩する「犠牲としての農民」であることが分かった。そして1970年代半ばからは、このような農民像が描かれなくなっていったことも分かった。

**キーワード** 消費される農村、「農業・農村」の表象、農事番組

## 1. 本報告の課題と先行研究

昨今、村落研究において「消費される農村」という分析視角が注目されるようになってきている。立川雅司は、農村への「まなざし」の形成過程とその帰結の検討を提起し、「都市ないし消費者」からの農村空間に対する見方・評価・意味づけを「消費的まなざし」[立川2005:21]と呼んだ。現在、農業従事者は、国民の3%以下になり、国民の大多数が非農家になった今、こうした農業・農村とは関係のない外部者からの“まなざし”によって農業や農村が語られる時代になっている。

こうしたなか、様々なメディアで描かれる「農業・農村」のイメージや表象についての研究が提出されてきた。例えば、農業白書における「行政のまなざし」について分析[秋津1996]、教科書における農業・農村像[北口・広田2000]、「消費的まなざし」について文学作品に表れた家制度[川本1973]、風景画での農村風景の構成要素[宮澤ほか1999]、文学作品内での農村風景[杉浦ほか2002]、現代マンガにおける農業・農村表象[一宮2008]があげられる。さらに本報告で取りあげるNHKの農事番組『明るい農村』（1963～1985年）などテレビ番組における農業・農村像については伊藤[2011]があげられる。

そもそも、このNHKの農事番組である『明るい農村』には、この番組枠内で放送された「村の記録」というドキュメンタリー番組がある。この番組では、全国各地の農村がとりあげられ、農村の現況を描いてきた。しかし、これまで「村の記録」に絞り、その内容を時系列的に分析した研究はない。そこで本報告では、この「村の記録」に注目し、その映像内容の分析を行うことによって農事番組の中で農業・農村の何が描かれ、そこに現出した農民像を明らかにする。

## 2. 研究対象と分析方法

### (1) テレビにおける農事番組の成立

NHKでテレビ放送が始まったのは、1953年2月1日である。このテレビ放送の中で農事番組が始まる契機になったのは、ユネスコ本部が日本政府への依頼で実施された「農村におけるテレビ集団視聴実験」（1954年）である。これは、テレビの集団視聴による大衆教育効果を図る実験である。この実験を日本では、文部省（当時）・ユネスコ国内委員会・NHKが共同で行うことになった。

ところが、当時の日本では、テレビの視聴者は都市に偏在していたため、テレビを集団で視聴し、討論する場所や組織を農

村に作る必要があった。そこでテレビ放送エリア内に属する 26 都道府県の中から 64 の町村を選定し、その公民館または学校にテレビ受像器を設置して「テレビ集会」を開催することになった。そうすると、この集会以視聴する番組も必要である。こうしてNHKは『伸びゆく農村』という番組を制作し、1957年1-3月、木曜日、18:30-19:00で計13回放送した。この番組では、農村の主婦の生活や土地改良、農民の健康問題などを扱った。このようなテレビ集会では「視聴者の意欲を、いかに現実化・実践化の方向に組織し、具体的に近代化を促進する力」〔文部省社会教育局視聴覚教育課編 1958:153〕になることが期待されていた。

この実験終了後、各地から番組の継続を求める声が相次ぎ、またNHK側もテレビによる教育効果を認めたため、新たに『のびゆく農村』という農事番組が制作された。これは1957年11月から火曜日18:40-57の時間帯に放送された(1959年度からは木曜日6:35-55に変更される)。1960年度からは『村の記録』と改題され、金曜日6:30-50の放送になった(翌年度からは日曜日7:45-8:00に変更される)。一方で、「テレビ農村向けの早朝番組の要望にこたえ」〔日本放送協会編 1962:115〕、朝の農事番組は1961年4月から始まっていた。それは、火・金曜日の週2回、6:45-7:00に放送された『朝の村から』である。この番組では、農村の話題・農業技術・農政問題などを伝えた。そして翌年度からは『村の記録』を1コーナーに含めた形で『朝のひととき』と改題し、毎日6:32-52の放送になった。さらに、この番組を発展される形で1963年4月から『明るい農村』の放送が月曜日から土曜日まで6:20-40の時間帯で始まったのである。『村の記録』は、この番組から独立し、日曜日6:20-35に変更になったが、1964年度からは、再度、『村の記録』は『明るい農村』の一コーナーとして放送されるようになった。なお1968年度からは漁業や漁村を取りあげた『明るい漁村』も始まるが、1982年度に『明るい農村』と統合され、番組名は『明るい農(漁)村』となる。以上のような経緯を経て『明るい農村』は1985年3月まで放送を続けた。

## ② 「村の記録」というアーカイブス

本報告者たちは、『明るい農村(村の記録)』を分析するために研究グループ「農事番組分析研究会」を組織し、2011年度の第3期「NHKアーカイブス」トライアル研究において、その番組閲覧の許可を得た。こうして2011年9月から2012年7月まで「村の記録」を閲覧した。現在、NHKアーカイブスには、約500本の「村の記録」が保存されている。しかし、「ネガフィルム」または「シネテープ」を再生する機材がないため、この形式で保存されている媒体を閲覧することができなかった。よって分析対象になったのは、閲覧可能な「VHSテープ」の媒体192本のみであった。また、これらは1971年4月5日から1980年3月26日までの「村の記録」であった。本報告での「村の記録」の映像分析は、この時期に限定したものであることを断つたうえで、以下、分析結果について論述する。

## 3. 『明るい農村(「村の記録」)』における農民像(I)

### (1) 出稼ぎと農民

戦後、東北地方や北陸・信越地方などの寒冷地方の農村で見られたのは「出稼ぎ」である。「村の記録」では、このテーマをたびたび取りあげている。『老人聞き書き帳』(秋田県雄勝郡羽後町貝沢地区、1975.2.3放送)では、70才以上の老人たちが戦前の小作労働から戦後の出稼ぎに至るまでの農民の苦労話を語る姿を撮っている。『また出稼ぎの冬が...』(新潟県東頸城郡松代町、1975.11.17放送)では、もはや現金収入の半分以上が出稼ぎになっている農民の事情を描く。

この出稼ぎを解決する方法として期待されたのは農村地域への「工場誘致」である。『歓迎!農村工場』(新潟県南魚沼郡六日町・東頸城郡大島村、1977.10.3放送)では、農村側は企業に誘致を働き掛けるが、「石油ショック」以降、誘致計画が全く進まない現実を描く。その一方で出稼ぎに出る農民たちを伝え、「農工一体」というスローガンが空しく響く農村を描写する。『空白の工業地帯』(青森県上北郡百石町、1979.3.26放送)では、東京に出張事務所を設け、企業誘致のために奮闘する役場職員を描く。しかし、未だに一社の誘致さえ成功していないことを伝える。

### (2) 減反と農民

戦後農政は、人口増大と食糧不足に対応するため「生産力向上」を推し進めた。しかし、米の消費量の減少によって米余りが続き、「減反」政策が始まる。「村の記録」では、この政策に苦悩する農民を撮っている。『減反詩集』(秋田県雄勝郡稲川町、1973.11.19放送)では、農民詩人である長里昭一氏による詩を紹介しつつ、減反による過疎・高齢化に揺れ動く農民を描く。また減反政策では米の転作が奨励されたが、その転作作物の栽培の難しさも伝えている。『減反通告』(石川県鳳至郡柳田村、1978.1.23放送)では、国の減反政策には転作による麦や大豆などの畑作振興が企図されているが、棚田や湿田が多いた

め転作が望めず、結局、出稼ぎに行かざるを得ない農民の様子を伝える。『妻たちの減反』（北海道士別市多寄町、1978.6.19 放送）では、開拓に伴う土地改良や基盤整備のための経費や労苦を考えると農民の妻たちにとっても受け入れ難いものであることを描く。

この減反に揺れた地域として最も取りあげられたのは大潟村である。『苦悩する八郎潟』（秋田県南秋田郡大潟村、1971.5.31 放送）では、「モデル農村」と言われた大潟村に入植したばかりの農民にいきなり26%の減反率が課せられることによって生まれる入植者の苦悩や対立を描く。転作物の栽培に追われ、「この一年あまりモデル農村建設にプラスになることは何もなかった」と言い放つ入植者の言葉に戦後農政の矛盾を見る。

### ③農業の近代化（機械化・化学化）と農民

戦後農業の歴史は「近代化」である。農業現場では効率性が重視され、科学技術や機械の導入によって農作業の「省力化」が図られた。こうした近代技術の利用は農民にとって福音であったが、その一方で問題をもたらした。『トラクター事故の周辺』（埼玉県大宮市など、1975.6.9 放送）では、農業機械の扱いをめぐって農民の死亡事故や怪我などが多発していることを伝える。一方で、農業機械の製造・販売企業が売上を伸ばしていることを批判的に描く。『農機具セールス合戦』（広島県賀茂郡黒瀬町、1975.2.10 放送）では農業機械を生産する企業を、『農機具売り込み作戦』（長野県伊那市、1979.2.5 放送）では農業機械を農民に販売するセールスマンの姿を描写する。

また、農業への「近代化＝化学化」は自然生態系を破壊した。『かえるのうた』（埼玉県越谷市、1973.6.18 放送）では、かつて水田にはカエルが数多く生息していたが、農薬の大量使用によって激減したことを伝える。しかし、昨今の農薬規制によって増え始め、夜ともなるとカエルの大合唱が復活していることも報告する。『稲が食われる』（愛知県常滑市など、1977.6.13 放送）では、愛知県知多半島の一部では基盤整備によって粘土質が掘り起こされた結果、その土を好む稲の害虫（イネミズゾウムシ）が大発生したことを描く。また農薬散布は、農民自らの健康を脅かした。『ある証言』（高知県南国市、1979.8.29 放送）では、農薬散布によって視力が低下した農業普及員の証言を紹介しつつ、危険に晒されながらも農薬を使わざるを得ない近代農業を批判する。農薬の被害者は農業従事者だけにとどまらない。『視力を奪われる子供たち』（長野県佐久市、1979.10.31 放送）では、子供の視力低下が問題になっており、その原因は周辺地域の農薬散布にあることを伝える。

### ④開発と農民

戦後、「国土の均衡ある発展」を目指し、農村地域では「開発」が行われた。この開発は、農村社会を大きく変容させた。『開発前夜』（青森県上北郡六ヶ所村、1971.4.26 放送）では、「むつ小川原開発計画」の発表後、戦後開拓農民によって開かれた農地が次々に開発業者によって買収される様子を描く。大規模な国家プロジェクトが零細農民をのみ込んでいく。また「新幹線」建設も農村の生活や暮らしを壊す。『新幹線が通る村』（群馬県利根郡月夜野町、1974.6.24 放送）では、新幹線トンネル建設によって田の水源である地下水が枯渇してしまった現状を伝える。開発が農業環境を破壊していく様子を撮る。『アオコの湖』（茨城県新台郡出島村、1973.12.17 放送）では、霞ヶ浦の水質が悪化したことを描く。その原因は、鹿島臨海地域の工業用水確保のため、霞ヶ浦に流れ込む水門が閉じられた結果にあると地元漁師は主張する。『汚染田の秋』（島根県鹿足郡津和野町、1979.11.28 放送）では、笹ヶ谷鉱山からの廃水に含まれたカドミウムによって農地が汚染された様子を伝える。

## 4. 『明るい農村（「村の記録」）』における農民像（Ⅱ）

### (1)都市化と農民

「村の記録」は、中央（東京）から離れた地方における「村（農村）」が舞台であったが、1970年代の半ばから、首都圏や都市部に近い場所が取りあげられるようになる。例えば、『農地転用』（埼玉県川越市、1976.4.26 放送）では、「都市計画法」によって「市街化区域」に指定された農地が次々と宅地化する様子を描く。そして離農し、不動産業を始める農民まで表れたことも伝える。これは『緑農協不動産部』（愛知県名古屋市長区、1979.5.23 放送）にも見られる。宅地化が進む中、農協が「農住団地」の建設を促進している様子を描く。『農地変転』（千葉県市川市など、1978.5.15 放送）では、農民が農地を積極的に売却し、土地バブルに嬉々とする様子を描く。長い年月をかけて耕してきた農地は現金を得るための資産に過ぎない。このように戦後農政に翻弄されてきた、いわば「犠牲者」としての農民は描かれず、むしろ近代化（都市化）を受け入れ、それを肯定的に生きる農民が描かれるようにもなった。

## ② 農民不在の「村の記録」

「村の記録」では、1970年代半ばから農業・農村・農民が取りあげられない番組も登場し始める。例えば、『“ごはん”売ります』（石川県金沢市、1976.6.28 放送）では、余剰米の消費量を少しでも増やすために石川県の食品会社がインスタント米を開発したことを伝える。また、消費量は減ったとしても加工すれば需要が拡大する可能性を示したのが『おにぎり産業繁盛記』（1979.12.5）である。ここでは「おにぎり」を専門的に販売するチェーン店が生まれ、東京郊外で開店ラッシュが続いている様子を伝える。このように「村の記録」では、「農村」という舞台や「農民」というアクターが描かれなくなり、むしろ農業生産の川下にある「食」の現場が取りあげられるようになっていく。

## 4. 『明るい農村』の行方

『明るい農村』の出発点になった『伸びゆく農村』の制作意図は、農民の教育的啓蒙にあった。それゆえ、番組視聴による農業の近代化や農村の生活改善が期待されていた。しかし、「村の記録」では、このようなコンセプトは感じられない。専ら取りあげられてきたのは、出稼ぎ・離村・過疎・減反など戦後の農村社会の問題であり、それに苦悩する農民であった。それは、戦後農政や高度経済成長の「犠牲としての農民」でもある。これは『伸びゆく農村』では描かれなかった農民像である。

もともと『明るい農村』の制作意図として「年々増加していく都会の視聴者には農村への理解と認識を深めてもらうような多角的な番組づくりにつとめた」〔日本放送協会編 1970:198〕と記されているように、農村・農業問題を都市の人間に理解してもらうというのがあった。番組が始まった頃は、高度経済成長の真っ直中であり、農村人口が減少すると同時に都市人口が増大していた時代である。それゆえ、大多数の視聴者は、農業・農村とは関係を持たない都市住民（消費者）になりつつある。こうして「都市と農村が真に理解し、また農林水産業が存立している地域社会の発展に役立つよう、新しい編成を実施した」〔日本放送協会編 1980:120〕と述べられていたように『明るい農村』は都市と農村を結ぶメディアとして期待されていた。

しかし、「村の記録」に見られたような農業・農村を経済成長の「犠牲」として描き出すことがどれだけ「視聴者＝都市住民」の農村への共感を生み出し、互いを結びつけるツールとして機能したかどうかは分からない。その一方で、都市と農村を結ぶ有効なツールとして期待されていたのは「食」であった。『明るい農村』では、これを取りあげた番組が1970年代後半から目立ち始める。1979年度に曜日別コーナーの再編が行われた際、木曜日は「現代たべもの読本」というコーナー番組になる。ここに『明るい農村』のコーナーとして食文化や食風俗など「食」に特化した番組が初めて登場する〔日本放送協会編 1980:122〕。さらに1984年度からは「食卓の科学」というコーナーも設けられ、食べ物の安全性・栄養・味などを科学的に検証する番組も作られる。こうして『明るい農村』は「視聴者＝消費者」を意識した番組に変容していくとともに、農村や農民の姿や実態は後景に退いていくのである。

## 参考文献

- 1) 秋津元輝 1996 「基本法下における農政の農村認識：白書記述の分析を通して」 日本村落研究学会編『村落社会研究』2(2)：19-30.
- 2) 一宮真佐子 2008 「ポピュラーカルチャーにおける農業・農村表象とその変化」 『村落社会研究ジャーナル』29：13-24.
- 3) 伊藤夏湖 2011 「NHK『明るい農村』の軌跡：農地改革から自由化まで」 『放送メディア研究』8：85-120.
- 4) 川本彰 1973 『近代文学に於ける「家」の構造』 社会思想社.
- 5) 北口まゆ子・広田純一 2000 「小学校社会科教科書における農業・農村の取り上げ方」 『農村計画論文集』2：187-192.
- 6) 杉浦高志ほか 2002 「大河小説『安曇野』にみる農村風景描写の変遷：戦前・戦後の比較から」 日本建築学会編『学術講演梗概集（計画系）』E2：711-712.
- 7) 立川雅司 2005 「ポスト生産主義への移行と農村に対する『まなざし』の受容」 日本村落研究学会編『年報村落社会研究』41 農山漁村文化協会：7-40.
- 8) 日本放送協会 1962 『NHK年鑑』 日本放送出版協会.
- 9) 日本放送協会編 1970 『NHK年鑑』 日本放送出版協会.
- 10) 日本放送協会編 1980 『NHK年鑑』 日本放送出版協会.
- 11) 船戸修一・武田俊輔・祐成保志・矢野晋吾・市田知子・山泰幸 2012 「テレビの中の農業・農村：NHK『明るい農村（村の記録）』を事例として」 『村落社会研究ジャーナル』37：37-47.
- 12) 宮澤鉄蔵ほか 1999 「日本の近代・現代風景画にみる農村風景の特徴：風景画構成要素の描かれ方について」 『農村計画論文集』1：67-72.
- 13) 文部省社会教育局視聴覚教育課編 1958 『テレビと社会教育：農村におけるテレビ集団視聴実験調査報告書』 日本放送教育協会.